

稲山会 通信

第15号

2007年7月1日発行

発行人：新井昭夫 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

ご挨拶

昭和33年卒業の上田訓央です。

会も50年も過ぎて代表でもないだろうと思ったのですが、最後のお勤めと思い直し引き受けることになりました。もともと、みんな山が好きで、或は好きになって一緒に登ってきた仲間です。

「遊びをせんやと生まれけむ、戯れせんやと生まれけん、遊ぶ子供の声聞けば、

我が身さえこそ動がるれ」(梁塵秘抄)

これは、いろいろと解釈があるようですが、それはさておき、唐突にこのようなものが出てきたのはここで云っているような感覚を人間誰しも持っていると思ったからです。

山登りも多少危険を伴った遊びであって、これを遊び半分で行ったのではつまらない。遊びは真剣にやってこそ面白いのである。これは私の持論です。この遊びの中でも人と人との出会いが生まれ、別れも出てきました。山を取り巻く状況は大いに変わってきたが、山そのものは少しも変わっていない。ですから、山に登るという遊びも基本的には変わっていない。

遊びの中では楽しい事も必要ですが、そこに山が存在すれば苦しさ、厳しさ、辛さがあって当然。このような要素があってこそ仲間との絆も深まり、信頼関係も強くなるもので、現役時代にこれらのものが培われて出来得たからこそ、50年もの長きにわたって山の会、稲山会が存在している訳です。

現在、稲山会のなかでは活発な動きが見られます。

旧研究部、同期会、同志会、各個人個人と、それぞれの山行き、都会での集まり。大変に結構なことだと思います。形はどうであれ、やはり山から離れられないのだと思われまます。

自分自身の身の丈にあった山との関わりを持っていれば間違いがないのではないのでしょうか。山以外の遊びも出てきているでしょうし。

社会生活、仕事生活のなかでは、利害関係のない、このような遊びサークルは中々求められないと思います。縁あって早稲田大学、山の会、稲山会と関わってきたなかで、積極的に関わってきたとき、山どころではないといったとき、長い人生の中では色々あって当然です。そのようななかで、少しでも余裕が出来たら又思い出して、少しでも関わって下さい。

山の会も今迄紆余曲折ありましたが、その都度、会員の努力により何とか継続が為されてきました。やはり仲間意識のなせる技ではないのでしょうか。感謝せざるを得ません。校歌にあるように文字通り「心のふるさと」たらんと願い、この遊びの会に真剣に関わろうと思っております。

会員の皆様も大いに遊びに参加して下さい。又、当然の事ながら現役の活動を見守り、限りない発展を願い、交流を図りたいと思います。

稲門山の会 代表 上田訓央 (S33)

会員近況報告—2007年新年会返信はがきより—

- ・昨年右眼を白内障手術しました。加齢を感じます。登山は昭和32年山の会で団体登山した妙義山に昨秋登ってきました。元気しております。(清水正昭 S.33)
- ・山はますます遠くなりました。今は恥ずかしながらゴルフです。(小松雅美 S.33)
- ・年末恒例の足慣らしスキーを、雪不足のためとり止めて以来、スキーに出かける機会がなく、やや運動不足の感じです。「地球・環境・ヒト・人間」というタイトルの本を出版しましたので、お読み頂ければ幸いです。(難波菊次郎 S.33)
- ・50周年記念行事が全て成功し、幹事役の皆様にはご苦勞様でした。私自身も50年も山登りをつづけ、年齢も70歳を超えてしまい驚いています。ここ数年はチロルで登山を楽しんでいます。(納見明德 S.34)
- ・山の会創立50周年は式典、パーティー、記念誌とも素晴らしいものでした。何十年ぶりもの再会もあり、意義あるひとときでした。最近山登りより船旅にはまっております。(吉澤章仁郎 S.34)
- ・今年できればトカラ列島中之島の御岳に登りたいと思っています。(清水保宏 S.35)
- ・今年古希を迎えます。体力の衰えどうしようもないですが、近くの山に登っています。(杉山宏 S.35)
- ・年を取った皆様にお逢いしたいと本当に思います。若き時の話などできたら……と思います。(弘海都子 S.35)
- ・相変わらず現役でコンビニ(セブンイレブン千葉本町店)をやっております。(樫吉雄 S.37)
- ・正月に南極点に立つも右腕骨折。(宮内隆輔 S.38)
- ・今年度よりフリーになりましたので、山にも積極的にいこうと思っています。(磯部映美 S.38)
- ・山の方は運動不足解消の一環として、専ら近場の奥武蔵と秩父方面に行っております。(金栄紘夫 S.38)
- ・昨年はドイツのシュバルツバルトを1週間ほど歩き、ドイツの秋を味わいました。山登りというより森林歩きでした。今年オーストリアのチロルに行こうと思っています。(田野辺親遠 S.39)
- ・相変わらずゴルフ・野球・芸能鑑賞など続けています。昨夏は、35年振りの登山で同期の皆さんになだめすかされながら鳥海山をクリアしました。1日おきの勤務も3月で終了です。(山崎征彦 S.39)
- ・元旦に湯河原から南郷山と幕山に登りました。ハイキング程度ですが、山歩きは続けるつもりです。(菊池博 S.39)
- ・暖冬だったためか今年の冬は過ごしやすく、今日は3月中旬並の温度だということで、自転車でディズニールランド近くまで春の大気を味わい満足でした。元気に暮らしています。(天野(佐藤)佑子 S.40)
- ・山に登る気力も体力もすでにありませんが、周囲を山に囲まれた、星の降るこの寒村でしか生きられなくなっているのを感じています。もうすぐ、チベット鉄道に乗ってラサまで行きます。(堀口公子 S.39)
- ・同期と定期的に集まり、時に山に登っています。昨年は、2月に湯の丸山、4月に那須岳、5月に立山、6月に西穂独標、8月に薬師岳、9月に日光白根山、10月に尾瀬燧岳に登っています。個人では8月に40年ぶりに劔岳に登りました。(齊藤雄二 S.40)

- ・盛況だった50周年イベント。幹事の皆さん、ありがとうデス。昨年は西上州の山や岩木山などシブイ低山歩きを年に3～4度程。もっぱら丘陵コースのゴルフ場歩きがトレッキング代わりです。(小島俊一 S.41)
- ・同窓生とたまに山に登っています。もう少し社会に関わりたいので、週3日程、社会奉仕の仕事(総務省・行政相談委員)をしています。(小田晟 S.40)
- ・この時期高いところには行けませんので、地元の低山ハイキングで足慣らしをしております。「50年のあゆみ」を時々読んでおります。(海野俊男 S.41)
- ・飯泉先輩が亡くなられたとの報せにショックを受けました。新人の頃、偉大なる先輩と遙か遠くより畏敬の念をもって見上げていたものです。御冥福を御祈りいたします。(松浦正道 S.42)
- ・先日の記念式典は卒業以来の方たちとも何人かお目にかかれて大変楽しい一刻でした。60周年まで何とか元気でいたいものです。(佐久間正昭 S.42)
- ・卒業以来ご無沙汰してしまい申し訳ありませんでした。昨年会社(日刊スポーツ新聞社)を退職しました。山もチョコボチョコ登っております。記念誌を送っていただき学生時代を思い出し、なつかしく思いました。有難う御座いました。(上原敏行 S.42)
- ・毎月1回登っています。1/27は沼津アルプスを予定。メンバーは迫田, 新井, 箕打, 豊田, 松村, 私の6名です。(斉藤延雄 S.44)
- ・冬はスキーと近郊のハイキング, 夏は北アルプスのピークに立ちたいと考えています。(新井昭夫 S.46)
- ・社会人2年目になり, 仕事が忙しいため, なかなか山に登れないでいますが, 恒例行事にしている丹沢大山での「初日の出登山」は果たしました。また, 11月に結婚しましたので, 今後は夫婦で登山ができればと考えております。(佐々木直之 H.17)

会計報告

適 用	収 入	支 出	残 高	備 考
繰越金(預金・現金の合計)			2,397,706	
年会費	456,000			
新年会会費	270,000			
現役 一人1500円×8名	12,000			
利息	403			
50周年剰余金	159,662			
新年会(金華飯店)支払い		300,000		
インターネット基本料		15,756		
都岳連加盟費		20,000		
役員会		20,750		
稲門会通信印刷代		39,900		
振込み代及び雑費		1,026		
	898,065	397,432	2,898,339	
		遭難対策費	2000000	
		合計残高	4,898,339	
残高の明細				
預金残高・郵便局			2,181,743	
・みずほ銀行			710,296	
・振替口座			6,300	
遭難対策費・郵便局定期			1,000,000	平成11年5月31日期日
			1,000,000	平成18年8月8日期日
			4,898,339	

スキーと温泉

平成19年3月3日

最初の一滑りでこれはアカン。宿に帰ろうと思った。何せ足はパンパン、背中の筋肉まで硬直して、全身金縛りにあったようだ。それでもしばらく肩で息をして立ちつくしていると、幾分平静さを取り戻す。それにしても何でこんな誤算が生じたのか。

昨秋、学生時代山行を共に楽しんだ仲間や先輩達と久しぶりに再会した話をしたが、今回はその続編。勧められた山登りは、体力の無い私にはとても無理で最初からその気が無かった。しかしスキーなら体力が無くても板の上に乗って滑り降りるだけだから、何ということはないと楽観した。またスキーをしなくても温泉を楽しめますと言う案内も気に入って、今回のスキーと温泉を楽しむ会に参加した。

場所は乗鞍高原。2.5年前の秋に町内絵画倶楽部でスケッチに寄った場所でもある。そのとき上の山の開かれた斜面を見て、冬はスキー場になるところと想像した。宿で海拔1,500m、上高地と同じ。ゲレンデはその上1,900mまで続く。今年は暖冬で積雪は1.5mと平常の半分以下であったが、滑りにはなんの支障も無い。

一行は24人(男女半々)、ほとんど70才前後の超熟年スキー隊である。しかし往路貸し切りバスでの話では皆さんかなりスキーが達者な人達ばかりのようである。私も11年間のブランクがあるが、それまでは毎年一度は滑っていたので、そう心配はしなかった。

ところが、一滑りめでのテイタラクである。ブランクをも顧みず、いきなり急な斜面を滑ったことを反省した。直後に控える長崎出張を考え、安全第一に徹し、謙虚な態度で臨むことにした。皆と別れ、一番緩斜面のゲレンデに向かった。緩くて加速度の恐怖もなく快適である。

スキー学校の看板を目にした。午前、午後各2時間、計4時間で4千円。初心者や中級は多数だったが、申し込んだ初級は私の他は40才ぐらいの女性一人だけだった。ラッキーである。彼女は中学の息子さんたちからスキーに連れて行けと3年前からせがまれ、今年ようやく重い腰を上げた。子どもは初心者クラスに入れての20年ぶりのスキーである。我々二人は初級というよりリハビリ級と言った方が当たっている。

二人の経歴を聞いた50才ぐらいの男性インストラクターは懇切に指導してくれた。この10年間でおおきく変わったのはスキー板のラディアン(回転半径と同じ長さの弧に対する中心角)が小さくなり、初心者でも回りやすくなったこと。そして回転時には横滑り動作を入れることなく、カービング(エッジを立てて、雪面を彫り刻む)を行うという。

難しい理論はともかく、最初のボーゲン(二つの板を逆V字に開き、制動を掛けながら滑る動作)からして中腰姿勢を取るのに難渋する。身体が硬いせいだろう。また今はシュテムパラレル(昔はシュテムクリスチャニアと呼んでいた)は、横滑りが入るので教えないとのことだったが、オールドスキーヤーの我々の為に指導してくれた。

生徒二人というのは教えを受けるのには良い環境だった。しかし他の生徒が滑るのを見ている時間(一息時間でもある)がなく、常に滑っている状態で疲れも感じる。最後は一番高いところまで案内され、それこそ全身で制動を掛けながら、決死の形相で滑り降りてきた。二人の生徒は足はもとより、全身が筋肉痛となり、悲鳴をあげる。

宿の白濁した温泉は実に快適で癒される。そして2.5年前、ここから車で20分の白骨温泉のことを思い起こした。3年前入浴剤投入発覚が契機で温泉問題を惹き起こした例の温泉地である。野次馬根性でその地に投宿した。まだ対処法が確立されていなかったと見え、入浴剤投入はもとより、加温・加水もしてはいけないという自粛状況のようだった。そのため湯は緩く、秋夜の寒さ

で露天の風呂から出るに出来なかった経験がある。

脱衣室には温泉の効能書きが掲示してあった。酸性硫化水素温泉（通称硫黄泉）でカルシウム、ナトリウム、硫酸イオンを多く含む。……ここまでは昔と同じ。更に、加水しない、掛け流し。入浴剤・殺菌剤は入れていないの宣言。8km先の源泉からパイプで引き湯しており、100軒の宿が利用している。しかし引き湯距離が長いので湯の温度低下があり、季節により適時加温していると説明書きしてある。結構なことです。今後もし是非適時加温して欲しいと思った。金曜の夜中着から日曜日昼発までの間に5回温泉入浴を楽しんだ。 渡辺 忠 (S37理工学部卒)

稲門山の会の野外活動計画

役員会で打合せの結果、以下を企画中であります。OB・Gの皆さま、奮ってご参加下さい。

日 時：本年の秋 2007年9月29日（土）・30（日）

場 所：丹沢のキャンプ場（場合によっては奥多摩も検討します。）

内 容：秋の週末、東京近郊の丹沢で、ハイキングをして、その後、キャンプ場に集合し、全員で手分けし、晩飯・朝飯を作り一晩を過ごす。歌集を手配し、懐かしい、昔の山の歌を歌う。

（案） 9月29日（土） 小田急の駅に 8：30頃集合しハイキング

ハイキング後、15：00頃キャンプ場集合

キャンプ場にてテント及びバンガローにて自炊・1泊

9月30日（日） 朝食後、ハイキング。その後、適宜に解散

以上を企画中であります。日程は決めました。詳細は追って、ご参加頂ける方に連絡致します。山の会の同期の方、奥様、お孫さんをお誘いの上、是非ご参加下さい。準備の都合上 8月末迄に、以下幹事に連絡をお願いします。

岡 康彦 葉 書 〒158-0082 世田谷区等々力3-28-17-302

メール fujiokay@fujisteel.co.jp

齊藤 延雄 葉 書 〒234-0054 横浜市港南区港南台9-19-1-601

メール nobuo_saitou@tokyotekko (nobuoの後はアンダーバーです)

新井 昭夫 葉 書 〒351-0114 和光市本町31-3-1011

メール araia@nifty.com

なお、秋のキャンプ以外に

早春のスキー：毎年3月に山の会のOB有志で、10数年前より企画されている「山とスキーの会」があります。金曜の夜に東京駅をチャーターしたバスで出発して、土・日に滑って、温泉に泊まる楽しい会です。

今回掲載した、渡辺さんの「スキーと乗鞍」は、この会に参加された時の記録です。（バスのチャーターの関係で山の会のOBG以外の方も参加されて企画されています）

初夏のハイキング：東京近郊の、緑とお花の綺麗な場所への日帰りハイキングを企画予定です。

計報：2005年に酒向松保さん（S33）、2006年に三谷政敏さん（S35）、2006年10月20日に飯野城平さん、2007年1月25日に飯泉信さん（S38）、2007年4月8日に姫野孝拓さん（S41）が逝去されました。

故人を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

五十年 昔の知己の集まりに 懐かしければ ともかくも行く

飯豊山へ 登りしパネルを眺むれば みんなみんな そのころ 二十歳

人とひと 綱いっぽんにむすばれて 水流のなか 徒渉せしかも

稜線で 吹き飛ばされしわれのこと 山男ども くちぐちに言う

生きたまま 鶏を背に吊るしつつ 一步一步と のぼりゆきしか

絞められる 前に卵を産みしこと 語り継がれて あはれにはとり



阪本まさ子

(S 35文学部卒)

編集後記

稲山会通信の第1号は1998年6月1日でした。当時の役員会で発行が決まりました。

9年前です。その後、45周年、50周年と大きな記念行事も開催出来て、50周年記念誌も刊行できました。時代も代わり、現役が少ないという課題を抱えておりますが、OB/G会は、上田新代表のご挨拶の通り真剣に「遊び・戯れる会」として継続してゆくのが大切ではと思っております。卒業年次の記載に関し、山の会の名簿は、「早稲田を卒業時の年次」ではなく「卒業した時の山の会の年次」で記載されております。山の会の年次の方が、実際の卒業年次より1年早くなっています。今回原稿を頂いた渡辺さん、阪本さんは「早稲田を卒業」の年次で記載させて頂きました。

新井昭夫